

1 はじめに

近年、情報化・国際化が急速に進展する中で、著作権に関する重要性が高まってきている。インターネットによって、誰もが情報発信できるようになり、小学校段階でも著作権教育への取り組みが求められている。

「新情報教育の手引き」では、ITを活用した授業を通して、教師が著作権に関する知識を身に付け、著作権について必要なことを教える配慮が必要であることが示された。(文部科学省 2002) また、文化庁では、平成 14 年度から 3 力年計画で、児童生徒向けの著作権を楽しみながら学べるソフトウェアを提供し、著作権に関する知識を取得する機会をより一層拡大すると共に、教材を容易に入手する環境が整えられている。(文化審議会著作権分科会 2004)

著作権教育の内容は、情報教育の目標にある「情報社会に参画する態度」の内容の一部であり、本実践での著作権教育では、総合的な学習の時間において、情報活用能力の育成と関連づけながら、児童の著作権感覚の向上と自ら考え行動できる態度の育成をめざしていきたい。特に、著作権に関する知識を単に教えるのではなく、実践力や態度面を重点的に指導して、著作権感覚をバランスよく育成するように配慮し、児童が楽しく学べるようにコンテンツを活用しながら、児童の著作権に関する意欲と実践力を高められるように指導していきたい。

2 指導計画

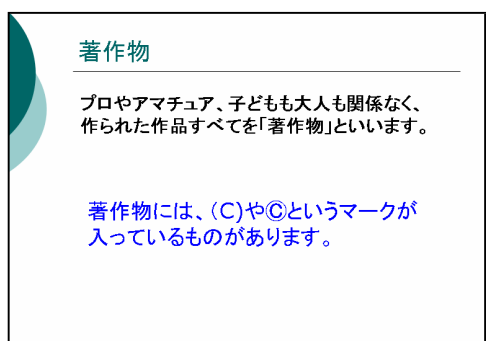
著作権教育を進めていく上で、学年の系統性や指導計画が重要だと考える。今回の実践は 6 学年のみの実践なので、学年間の系統性は考えていないが、より著作権に関して児童が関心を示し、実践力を身につけてくれるように授業を組み立てた。

時	小单元名	指導内容	備考
	著作権って何だろう？ ～さがせ、コピーライト 探検隊～	CD や本、絵画などの著作物を身の回りから見つけ、著作権を大切にすることを養う。	1 学期実施
	著作権を守ろう ～みんなの大切な権利 ～	著作権に関するコンテンツを活用し、著作物や著作権の基礎知識を身につける。	1 学期実施
	著作権クイズを作ろう！	著作権についてわかったことをまとめ、クイズを作成して著作権について理解を深める。	2 学期実施

3 具体的な実践内容

(1) 「著作権って何だろう？」(身の回りから著作物を見つける授業実践)

身の回りから著作物を見つける活動を行う前に、著作権についてプレゼンテーションをしながらcマークや著作物についておさえるようにした。



著作物に関するプレゼンの一部



図書資料からCマークを見つけている様子

そして、CDや本、絵画などの著作物を身の回りから見つける活動では、図書資料の中から、著作権に関する記述部分を探したりして、コピーライト(C)の記述やその留意点について考えるようにした。

下記に示すのは、授業の中で見つけた著作物の特徴を整理したものである。

(C)の記述	著作物	特徴
(C)あり	筆箱、鉛筆	キャラクターを掲載してある。
	ビデオ、鑑賞CD、 図書室の本	詳細な留意点が記載してある。
(C)なし	習字作品、図工作品、 美術品	児童の著作物が多く、氏名やサインが記載してある。

活動を終えた子ども達の感想には、「あまり気にかけていなかったcのマークの意味がよくわかった」とか「学校にもたくさんの著作物があるんだなと思いました。」など、筆箱のキャラクターや友達の習字の作品なども、著作物であることに気づくことができた。このことにより、日頃から著作物に目を向けるようになり、他の人の著作物を大切にすることが身についてきた。

(2) 教材コンテンツで基礎知識を学習する実践

文化庁のコンテンツや著作権情報センターのコンテンツを活用して、自分の課題に応じて、著作物や著作権の基礎知識を身につけるように学習を進められるようにした。このコンテンツは、クイズ形式になっており、子どもたちも楽しみながら学習を進めることができた。複製(コピーなど)の留意点や私的使用、学習での利用

などの著作物を利用する際の留意点についても学習を深め、著作物や著作権の基礎知識を身につけるようにした。

これらのコンテンツは、クイズ形式になっており、子どもたちも楽しみながら学習を進めることができる。

コンテンツを活用した授業を実施し、複製（コピーなど）の留意点や私的使用、学習での利用などの著作物を利用する際の留意点についても学習を深めるようにした。



コンテンツを活用した授業を通して、著作権の基礎的な知識を身につけるとともに、他の人の著作物（作品）を大切にする態度が身に付いてきた。

（３）著作権クイズの作成

６年生では、著作権に関する学習のまとめとして、著作権クイズを作成し、児童がお互いに出題して楽しむ活動を取り入れた。

子どもたちは、これまでの著作権に関する体験的な活動やデジタルコンテンツ、各教科での学習を振り返りながら、できるだけたくさんのクイズを作成し、友だちに出題して答えてもらうように取り組んでいた。

作成したクイズは、プレゼンテーションソフトを用いて、完成した後で簡単に出題できるようにした。クイズは出題文と併せて、正解とその出題文に対する解説を書き込ませるようにした。

